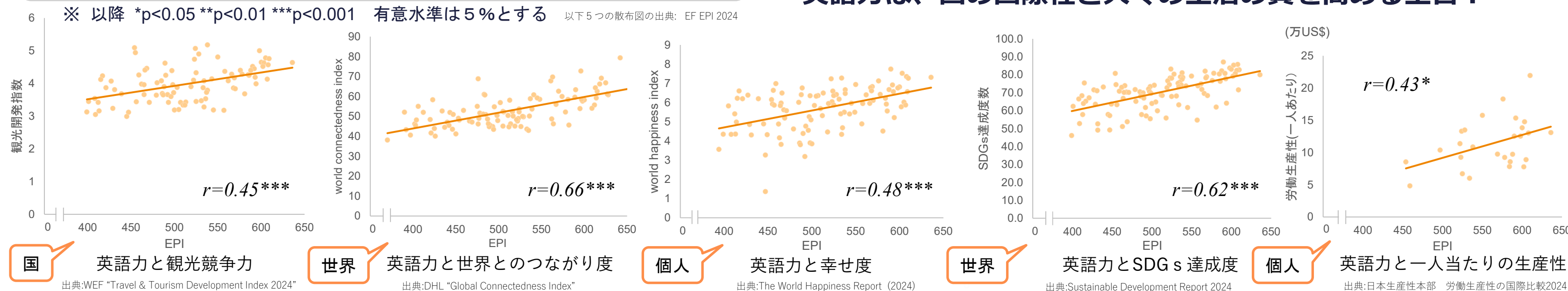


日本人の英語力が世界危機?!

①英語を学ぶメリット

▲英語力の高さは、個人、国、世界に様々な面で**いい影響**を与える！
英語力は、国の国際性と人々の生活の質を高める土台！

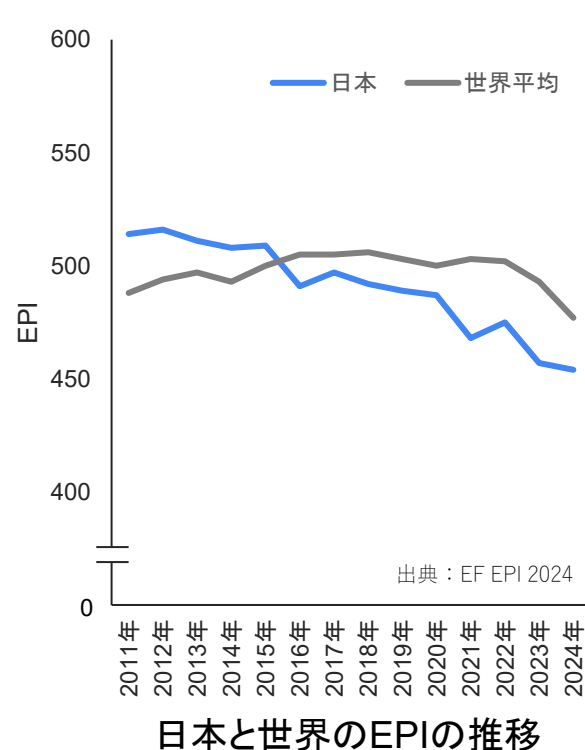


②日本人の英語力の現状

〈① 日本の英語力の位置〉

- ▶日本は**92/116**位 出典: EF EPI 2024
- ・非英語圏の中でも低い順位
- ・これまでで最低順位

〈② 日本の英語力の推移〉

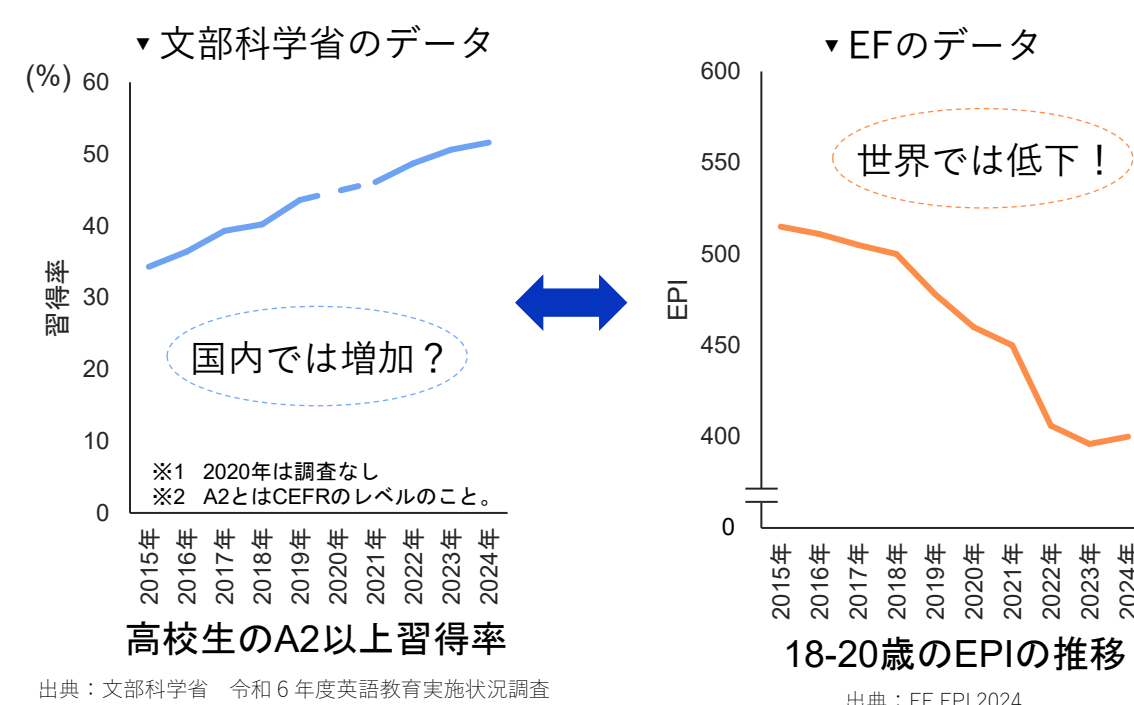


▲日本人の英語力が低下傾向

EPI (English Proficiency Index)
EF (Education First) が毎年行っている、主に非英語圏の国々116カ国の18歳以上の人々を対象とした調査。

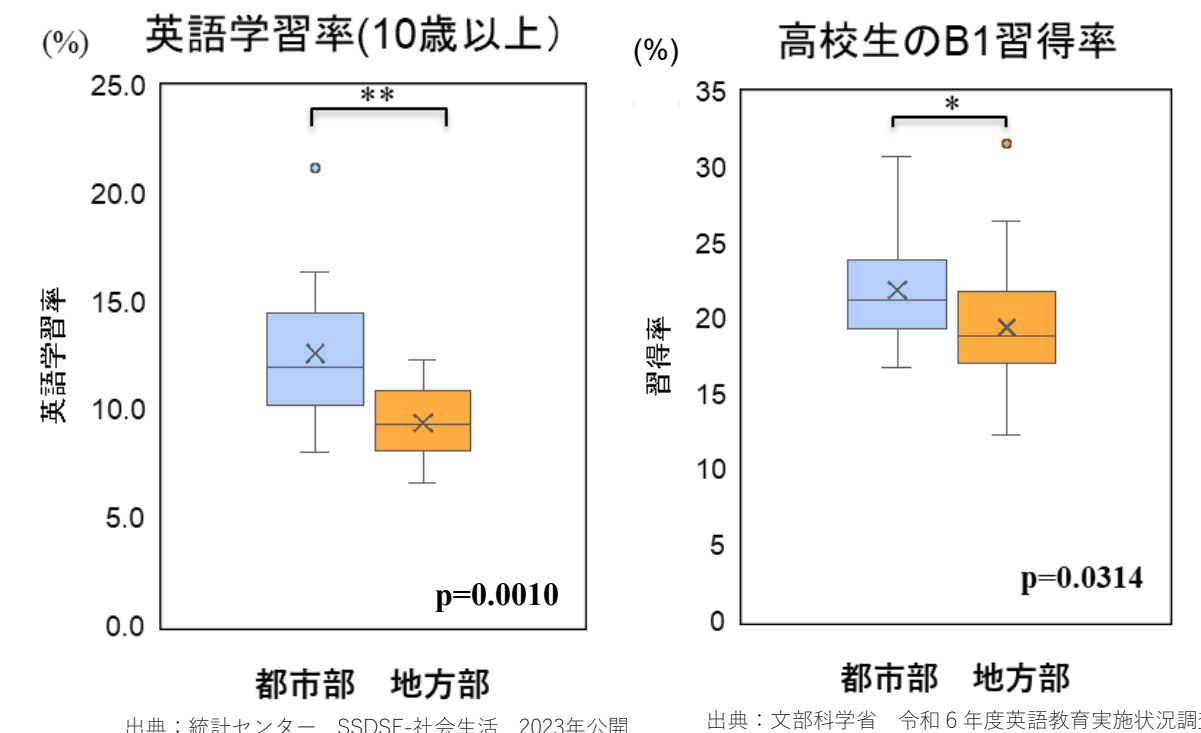
〈③ 若者の英語力の推移〉

▼実は**若者**の英語力は**相対的に低下傾向**



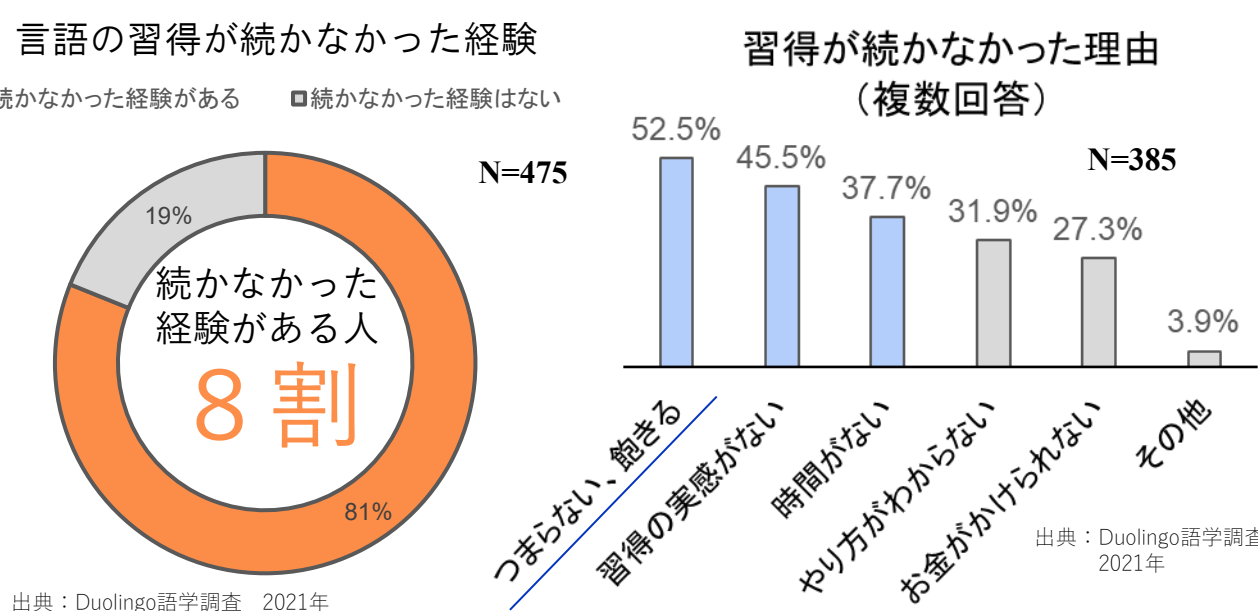
日本全体で英語力が**低下**。また、英語学習では**地域差**が出ている。
⇒ 特に**若者の教育に注目**し、全ての地域の若者の英語力を国が向上させれば**将来的に日本全体の英語力も向上**すると期待

〈④ 都市と地方の比較〉



▲**英語力には地域差がある**

〈⑤ 新しい言語の習得について〉



▲**モチベーション低下が習得の障壁**

③英語教育の国際比較

※マレーシアは非英語圏でEPIがアジア一位、オランダは世界一位

表は文部科学省 令和6年度英語教育実施状況調査、Malaysia Education Blueprint 2013-2025、Eurobarometer、De Staat van het Onderwijs などから作成

日本の教育と世界の教育の比較表

	日本	マレーシア	オランダ
高校卒業時の目標(CEFR)	A2-B1	B1-B2	B2
英語授業時に教師が使用する言語	日本語併用	英語中心	英語中心
教師の英語力の基準(CEFR)	ない(B2が目安)	C1	C1
ICTの活用状況	一部活用	積極的	積極的
教育課程での英語の授業年数	10年間	11年間	約11年間
人々の英語が重要だと思っている割合	65%	90%	94%

教師の**英語力**が高いほど生徒の英語力も上がる？→①

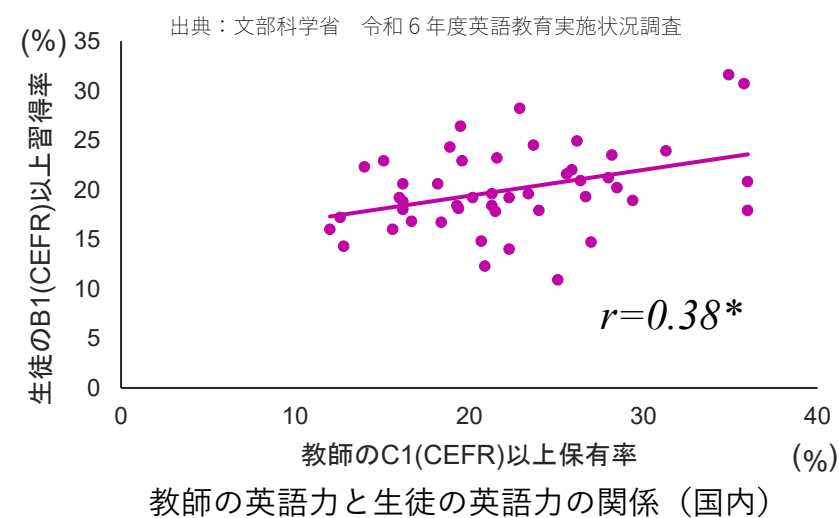
ICTを活用することで英語力が上がる？→②

授業時間と英語力にはあまり相関がない？→③

英語に対する**意識(モチベーション)**を上げるには？→④

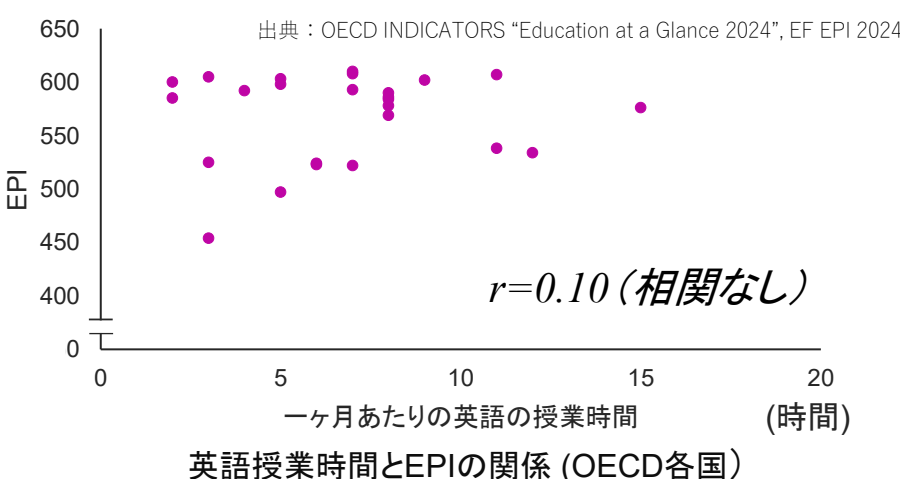
提言

① 教師および生徒の英語力



▲教師の**英語力**が高いと生徒の英語力も高くなる傾向

③ 授業時間と英語力



▲英語の授業時間の長さ(=量)は英語力に**関係ない**

② ICTの活用と英語力

授業でのICTの活用方法と生徒の英語力の相関

	遠隔地の生徒と英語で交流	遠隔地の英語に堪能な人との個別会話	SNSやチャット等を用いたやりとり	デジタルコンテンツの活用	デジタル教科書の活用
生徒のA2(CEFR)以上習得率	0.44**	0.48***	0.24	-0.24	-0.35*
生徒のB1(CEFR)以上習得率	0.42**	0.56***	0.37*	-0.1	-0.23

出典: 文部科学省 令和6年度英語教育実施状況調査

▲デジタル教材はあまり英語力の向上には**貢献しない？**

日本 あくまで授業の**"補助"**だから**機能が少ない...**
授業自体が**テスト対策**みたいな内容だから**充実しない...**

デジタル教材を**メイン**の教材として授業をしている！
授業は英語を**社会生活で活かせる**ようにする内容！

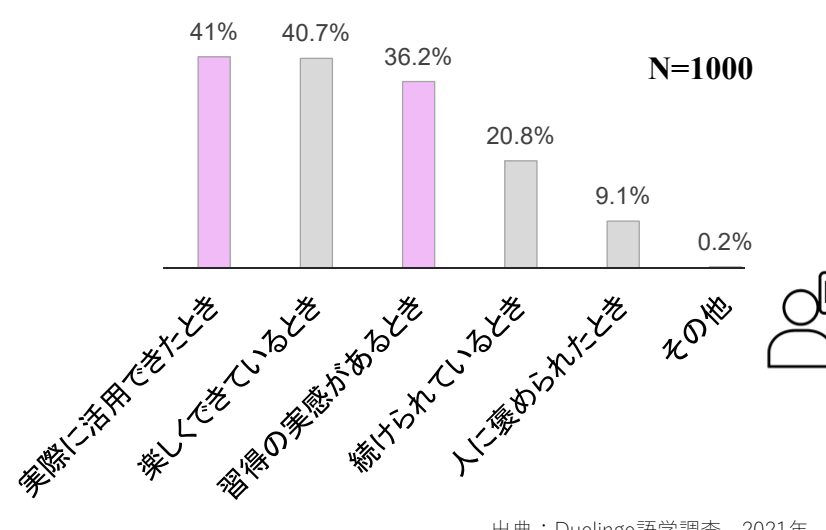
他国

▲ICTを活用した、生徒が**英語で交流**する機会があるほど英語力が高くなる傾向にある

⇒英語を**実際に"使う"**ことが大事！

④ 英語学習のモチベーション

どんな時にモチベーションが上がるか(複数回答)



▲モチベーションを上げるには、**活用できた**と感じる**経験**が必要
⇐日本の英語教育や日常生活ではそのような**経験が少ない！**

普段から生活の中で英語を使う人の割合

日本 **3.5%**

マレーシア:約**60%**

オランダ:約**90%**

他国

〈まとめ・提言〉

日本人は様々な面で大事な英語力が世界的に低く、地域差もある。

⇒その改善には、英語教育の**質の向上**と**活用機会の確保**が重要！

提言①: 教育は"質"を重視！

—教師の英語力に明確な基準を設定
—授業内容を、日常で役立つ英語に改善

提言②: 英語を"使う"機会の増加

—学校外での英語活動(交流プログラムや留学プログラムなど)の充実
—理科や数学の授業でも一部英語を使うように。学校生活の中で**"英語タイム"**(生徒同士でも英語で積極的に話す時間)の導入など